

鈴鹿ベイロータリークラブ

例会日 木曜日 18:30～19:30
例会場 鈴鹿サーキットホテル
事務局 〒510-0295 鈴鹿市稲生町7992
鈴鹿サーキットホテル
TEL 059(379)2484 FAX 059(379)2770



人類に
奉仕する
ロータリー



第1256回 例会報告 (2017年4月27日)

地区研修・協議会報告-2

次年度会長・幹事

■司 会 / 磯部弘生 次期幹事

■ロータリーソング / 手の手つないで

■会長挨拶 / 平野泰治 会長

「お伊勢さん菓子博2017」が、4月21日から開催されました。連日大盛況で、入場に長蛇の列との報道が続いています。当クラブの大泉会員の「亀屋清泉庵」も出展されていることもあり、久しぶりに景気の良い話を大変嬉しく思います。

さて、今日は、「鈴鹿市のこども政策」についての、議員勉強会に出席してきました。マスコミの報道でも明らかなように、現在のこどもやその家族を取り巻く環境は、非常に厳しさを増しています。こどもの貧困、教育格差、乳幼児の保育、障がいや病気のあ

るこどもへの対応など、教育・福祉・医療とその課題は、多岐に亘っています。鈴鹿市でもこども政策は、昨年度からスタートした新たな総合計画でも、最重要課題として、取り組んでいます。鈴鹿市の組織機構も、これまで様々な部局に分かれていたものを一つにまとめ、「子ども政策部」を設置し、総合的に進めていくことにしました。

「こどもは世の中の宝、地域ぐるみで守り・育む」今年で還暦を迎える、私のような昭和世代の者には、ごく常識的なことでも、中々それを実行するのが難しい社会環境となりつつあります。地域社会の一員として、我々ロータリアンも、こどもが元気に笑顔で育つ社会づくりに、しっかりと取り組んでいかなければと痛感しました。

■幹事報告 / 川岸憲博 幹事

(1) 5月のロータリーレートは、110円です。

(2) 来週の例会は法定休日のため、例会は休会です。

(3) 鈴鹿青年会議所より創立50周年記念式典並びに祝賀会のご案内がまいりました。

日時；平成29年6月18日（日） 午後1時30分

(4) 2016～2017年度地区大会事務所閉鎖のお知らせがまいりました。

■出席報告

例会日	会員数	出席者	欠席者	出席率
4月27日	12名	10名	2名	83.33%

2週間前の補正後出席率 12名中 11名 91.67%

■ニコボックス

平野泰治……宮崎さん、タイの話楽しみです。

■例会 / 地区研修・協議会報告-2

・川岸会員

地区研修・協議会では会員増強（維持）部門の分科会に参加してきました。その中で話されたことは、当第2630地区の会員数は今から22～23年前がピークでその数は約5300名であったということです。現在は約3100名ですから40%強の人がロータリーから去っていったということになります。世界のロータリークラブで女性会員の比率は約20%だそうです、日本では平均7%だそうです。ところが当2630地区の女性会員の比率はなんと4%だそうです。地区はこれを5%以上にしたいと願っているそうです。

23名の会員増強を成し遂げた、岐阜南ロータリークラブから成功体験として事例発表がありました。岐阜南ロータリークラブは最も多い時には約120名の会員がクラブに在籍していましたが、68名までその数は減ってしまったそうです。創立50周年を迎えるにあたり、会員数を100名以上にしたいとの願いで、クラブ一丸となって会員増強に取り組み、23名の会員を新しく迎え入れることに成功したということです。

質疑応答の時間では、津ロータリークラブが「当クラブでは女性会員をかたくなに拒む、クラブにとっては無くてはならない重鎮的な会員が3名いますので女性会員の入会は難しいです」と意見発表されましたが、その意見に対して村橋 PDG は「そんな（女性蔑視をする）会員はクラブを辞めてもらって結構です」と驚くべき返事が返ってきました。村橋 PDG 個人の意見としてでも、地区はそれほどまでに女性会員の入会を望んでいるのかと考えさせられました。

会員数が50名以上のクラブは2名、会員数が50名未満のクラブは1名の純増を必須とする地区の目標を掲げられました。次年度のクラブ会員増強を担当するにあたり、会員皆様のご理解とご協力で鈴鹿ベイロータリークラブの会員数が15名になるように活動していきたいと思います。



・長岡会員

次年度から地区財団部門・ポリオプラス小委員会委員とさせていただくことになりました。今回の分科会では、聞く立場から説明する立場に自分の席が変わったということで、たいへん緊張いたしました。まず冒頭に財団部門の辻正敏委員長が挨拶され、委員一人一人が紹介されました。

100名ほどが参加された分科会ですが、特に私が所属するポリオプラス小委員会の故金（かるがね）委員



長がポリオプラスの現状を説明され、それに対する支援を参加者に訴えていましたが、日本で行われるポリオ撲滅運動と現地で実際に行う投与活動は、大きくかけ離れていると感じました。

地区財団部門の活動は、寄付金を集める・補助金活動を勧める・寄付金の管理をするといったことがほとんどだそうです。ぜひ財団部門自らが行動者となって世界で良いことをしてほしいと感じました。

当例会場の入り口に「END POLIO NOW」と書かれた募金箱を設置させていただきました。財布やポケットの中のお札・小銭問いません。ご寄付をよろしくお願いいたします。

・宮崎会員

地区役員として参加させていただきました。役員紹介の準備のため、田川ガバナーエレクトの活動方針等、大切な部分は聞くことができなかったのが残念でした。

全体会議の主な印象として、研修部分は会長エレクト研修会等と大差ないと感じました。全体会議の内容・会長エレクト参加の分科会等の進行を再考してみれば、PETS と地区研修・協議会の併設は可能かと思います。地区研修委員会に提案してみます。

分科会は職業奉仕部門・奉仕プロジェクト部門が初めての試みとして合同で行われ、私は当分科会のリーダーとして参加いたしました。ロータリーの理念を追求する職業奉仕と、ロータリーの奉仕活動を勧める奉仕プロジェクト部門が同室に就いて学習することは、私を含め古いロータリアンには考えが及ばないところでありました。職業奉仕部門の進行内容については先に中村会員から報告があった通りです。付け加えれば、職業奉仕の実践活動についてはクラブ毎に考え方に差があることがわかりました。当クラブではどうか考えなければならないと思いました。

奉仕プロジェクト部門については、社会奉仕小委員会と国際奉仕小委員会が其々に選んだクラブの活動報告がありました。志摩ロータリークラブが発表したインドネシア・バリ島内の小学校に水道設備や PC 等を寄贈した活動は、補助金を受けずに行った事業としては素晴らしい活動力だと感じました。発表された他のクラブも、ロータリーとして誇りをもった活動として喜ばしく感じました。ただ、今後は現地の人々のためにも寄贈だけで終わらず、持続性があるシステムを構築してほしいと思いました。

そして今年度から始まった社会・国際両地区委員会が行うクラブではできない広い範囲の奉仕活動は、今後の地区委員会の在り方・進め方に大きな影響があると感じました。

先般、地区奉仕プロジェクト部門・国際奉仕事業を行っている関係上、タイ国第 3330 地区へ行ってまいりました。第一の目的は財団のグローバル・グラント活動として行う「7 カ所の村・学校への水の浄水器の設置事業」の事前視察です。完成は 10 月中旬になりますが、地域の人々の期待度は私たちの想像をはるかに超えるものを感じました。そして、第二の目的は同地区の地区大会に参加する事でした。地区創立 25 周年記念と若い地区ですが、ロータリーへのエネルギーの高さに感心いたしました。



■ 親睦と奉仕

2770 地区 越谷東RC 元会長 青木伸翁

現在のロータリーは、親睦を昔のようには大切にしていないんだという人がいます。会員が親睦を深めあうことは当たり前のことであって、親睦は奉仕をする上で、大前提のことであり、親睦は目的ではないんだ、ロータリーの目的は、世のため人のために何か良いことをすること、いわゆる「奉仕」することが大切なんだということだと思います。確かにそういうふうにも考えることもできると思います。

しかし、ロータリーが言う、真の意味での親睦を深めあうことが、そんな簡単に出来ることなんでしょうか、そんな簡単にかたづけていいのでしょうか。会員同士の心と心が通い合うことがないから、本当に良い友達がいらないから、現在のロータリーには、親睦活動はあっても、真の意味での親睦が無いから、簡単にクラブを退会する会員が多いのではないのでしょうか。親睦の真の意味、大切さが解らないから「奉仕」の本当の意味を理解出来ないのではないかと思います。私は現在のロータリーで、一番の問題はここにあるのではないかと思います。親睦を深めるということは、他人への思いやりを深く持つということです。他人は思いやりをかけてもらおうと、思いやりをかけてくれた人に対し好意を持ち、次に自然と、その人に思いやりのお返しをすることを考えるのではないのでしょうか。この、人と人の「思いやりの交換」が大切なのではないのでしょうか。我々は、それを「親睦」と言っているのです。

思いやりとはなんなのでしょうか、思いやりとは「奉仕の心」と言えるのではないのでしょうか。このように考えると「親睦即ち奉仕の心の形成」と言ってもいいのではないかと思います。

我々は、クラブの例会で、他の会員から自分の足りないところを謙虚に学び、自分を高めていく、その過程で、会員同士が親睦を深めあう。この親睦を深めあうということが、「奉仕の心」を育むということになり、その育まれた奉仕の心を持って、奉仕の実践をするのが、本来のロータリーなのではないのでしょうか。



100年前、ポール・ハリスは、奉仕は親睦の上にある、高い次元のものであると考えました。しかし、ある時、このことの間違いに気づき、「ロータリーは親睦と奉仕の調和の中に宿る」と言っています。我々は、このことを思い出し、今こそ、我々ロータリーにとって、「親睦」と「奉仕」が同じように、大切なものであるということを思い出すことが必要なのではないのでしょうか。